

令和2年度 上武大学 大学院 経営管理研究科 シラバス

講義番号	授業科目名	財務会計演習Ⅱ		担当教員	白山 真一		
	英語授業科目名	Financial accounting seminarⅡ		単 位	4	学 期	通年
対象年次	2年次	クラス指定	なし	他との関連	財務会計特論 A,B		
履修条件	財務会計演習Ⅰを履修していること。						
テーマ・副題	会計理論及び会計制度・実務の現状分析、課題抽出、対応の方向性の提示						
授業の教育目的・目標	会計理論及び会計制度・実務に関する修士論文を完成させること						
授業の理解度の到達目標	研究論文としての形式要件を満たしたうえで、鋭い「問題意識」に基づく、質の高い修士論文を完成させること。						
授業キーワード	国際財務報告基準（IFRS）、国際公会計基準（IPSAS）、企業会計基準、政府・非営利会計基準 等						
授業の内容	企業会計の制度研究、理論・概念研究、実証研究など、各自の研究論文テーマや研究方法論に応じた授業内容とする。なお、研究テーマは企業会計に限定せず、政府会計、地方自治体会計、非営利会計などの領域を選択してもよい。						
授業の方法	各回とも修士論文の作成過程等を報告してもらい、論文完成に向けた指導を行う。						
授業展開	<p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 修士論文のテーマ及び問題意識の個人別発表①</li> <li>3. 修士論文のテーマ及び問題意識の個人別発表②</li> <li>4. 修士論文のテーマ及び問題意識の個人別発表③</li> <li>5. 修士論文の構成内容及びロジック体系の個人別発表①</li> <li>6. 修士論文の構成内容及びロジック体系の個人別発表②</li> <li>7. 修士論文の構成内容及びロジック体系の個人別発表③</li> <li>8. 修士論文の個人別経過報告①</li> <li>9. 修士論文の個人別経過報告②</li> <li>10. 修士論文の個人別経過報告③</li> <li>11. 修士論文の個人別経過報告④</li> <li>12. 修士論文の個人別経過報告⑤</li> <li>13. 中間発表①</li> <li>14. 中間発表②</li> <li>15. 中間発表③</li> </ol> <p>[後期]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. 修士論文の個人別経過報告⑥</li> <li>17. 修士論文の個人別経過報告⑦</li> <li>18. 修士論文の個人別経過報告⑧</li> <li>19. 修士論文の個人別経過報告⑨</li> <li>20. 修士論文の個人別経過報告⑩</li> <li>21. 修士論文の個人別経過報告⑪</li> <li>22. 修士論文の第1稿発表</li> <li>23. 修士論文の第1稿発表</li> <li>24. 修士論文の第1稿発表</li> <li>25. 修士論文の第2稿発表</li> <li>26. 修士論文の第2稿発表</li> <li>27. 修士論文の第2稿発表</li> <li>28. 最終発表①</li> <li>29. 最終発表②</li> <li>30. 最終発表③</li> </ol>						
成績評価方法	論文の完成内容（60%）を中心に、論点の整理や論文の発表状況（40%）などを総合して評価する。 なお、出席状況が60%未満である場合には、成績評価が不合格になる場合がある。						

成績評価基準	成績は総合点で 80 点以上を A、79～70 点が B、69～60 点が C、それ以下を D とする。		
テキスト	なし		
参考図書	「企業会計」「会計・監査ジャーナル」「経営財務」「税経通信」「会計」などの会計専門紙、関連図書		
準備学習に必要な時間、又はそれに準じる程度の具体的な学習内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各自の研究論文テーマに対して、発表担当者は①発表内容のレジュメ作成②発表のプレゼンテーションの準備を十分にしてくる事</li> <li>● 研究論文のテーマを検討する際には、常に「問題意識」を明確にしていくように心掛ける事</li> </ul>		
学生へのメッセージ	論文テーマの決定、先行研究及び必要資料のサーベイ、問題意識の明確化、構成案（目次とそのロジック体系）の作成を早い段階で手掛けることが重要となります。なお、テーマ発表に際しては、発表を聞いている院生も積極的に発言するようにしてください。		
オフィスアワー	主に以下に示したメールにより質問等を受け付けることにする。		
連絡先	電話番号	0274-42-2828（内線：407）	メールアドレス: shirayama@jobu.ac.jp
人数制限	特に定めない。		